

# 労働図書館新着情報

## 今月の10冊

<p>①武石彰他著『イノベーションの理由』有斐閣 (xxii+506+xiii頁,四六判) イノベーションはどのようにして実現されるのか。本書は、「分析・理論編」と「事例編」からこの問題を解き明している。革新的な技術やアイデアを商品化・事業化するため、社内外の協力、生産設備や販売体制、資金とともに、資源動員の正当化が不可欠である。こうした過程を経て、イノベーションを達成した8社の事例を分析する。</p>	<p>⑥大内伸哉著『労働の正義を考えよう』有斐閣 (viii+469頁,A5判) 副題は「労働法判例からみえるもの」。学生や社会人を対象に行った労働法と正義に関する架空講義録。労働に関するテーマを法的な観点で考えるところなるかを判例を用いながら説明。採用・解雇から始まって、労働時間、年次有給休暇、過労死など25のテーマをわかりやすく解説している。労働者性や大学生の就職活動などの新しい問題もカバー。</p>
<p>②白木三秀編著『チェンジング・チャイナの人的資源管理』白桃書房 (vi+302頁,A5判) 本書は、2000年代半ば以降の中国の経済社会におけるダイナミックな質的变化に焦点を当てている。特に注目しているのは、労働紛争の発生を抑制するため、2008年に施行された労働契約法。それまで立場が弱かった中国人労働者が保護される半面、企業は人件費増大を懸念した、と指摘。豊富なデータとともに日系企業の事例にも多数ページを割いている。</p>	<p>⑦丹野勲著『日本の労働制度の歴史と戦略』泉文堂 (256頁,A5判) 江戸時代の奉公には、雇用主に「仕える」という意味があったという。日本の雇用慣行には、こうした奉公人制度が色濃く反映しているのではないかとし、その遺伝子が現代の「愛社精神」に脈々と受け継がれていると分析している。日本企業の雇用慣行の解説では、明治30年代にすでに定年制が一部大企業で行われていたと指摘している。</p>
<p>③ジョセフ・E・スティグリッツ他著『暮らしの質を測る』金融財政事情研究会 (34+153頁,A5判) 新しい幸福度を軸にした経済・社会指標を探る一冊となる労作。サルコジ前フランス大統領が任命した「スティグリッツ委員会」は、議長である著者をはじめ、世界的な24名の経済学者、社会学者で構成され、GDPのような従来の代表的な経済指標の見直しなどについて議論し、成果をまとめた。フランスでは全公務員の研修用必読文献になった。</p>	<p>⑧遠藤公編著『個人加盟ユニオンと労働NPO』ミネルヴァ書房 (v+253頁,A5判) バブル経済崩壊とともに、企業内組合が十分に役割を果たすことができなくなりつつあるが、新しい労働者組織である個人加盟ユニオンと労働NPOが代わりに注目を集めている。本書は、国内・海外における労働者組織の実態調査を分析し、国内組織がどのように発展していったのか、さらに韓国、中国の労働組合に関する最新の事例なども紹介している。</p>
<p>④橋本俊詔他編『社会保障改革への提言』ミネルヴァ書房 (x+225頁,A5判) 本書は、なぜ社会保障制度改革が遅々として進まないのかを探るとともに、改革には発想の転換が必要と問題提起。特に現行の制度と全く異なる社会保障制度であるベーシック・インカム (BI) にページの3分の1を割いている。BIが転職を早めるため、人材確保に苦勞してきた中小企業経営者は導入に否定的になるかもしれないとの指摘は興味深い。</p>	<p>⑨佐藤博樹他編『仕事の社会学』有斐閣 (xiv+240頁,A5判) 仕事に関する社会学の教科書。雇用労働に従事する人々の多様な働き方と、それらを取り巻く社会制度を取り上げている。学校を卒業し、就職してから定年を経て引退するまでの職業生活に沿ってキャリアを分析。今回、「雇われない働き方」の章を追加し、個人請負やフランチャイジーにも目配りしている。内外の基本文献も簡潔に紹介。</p>
<p>⑤川口美貴著『労働者概念の再構成』関西大学出版部 (xlii+462頁,A5判) 労働者の職務内容や就業形態が多様化するなか、その労働に従事している個人が労働基準法や労働契約法、労働組合法が対象とする「労働者」に当たるかどうかを争う事件が増えている。本書は、従来の学説・判例を批判、労働者の判断基準から使用従属性を排除し、客観的で明確な労働者の定義を提示、その範囲を確定することを試みている。</p>	<p>⑩宮台真司著『宮台教授の就活原論』太田出版 (229頁,B6判) 「イメージ優先で就活する学生が多すぎる」「『仕事の中身』よりも周囲から承認されることを好む」「新聞やインターネットなどから流れる情報を真に受けず、社会的文脈を評価する能力を身につけていない学生が多い」と指摘。社会問題を幅広く論じる著者が、大学生の就活問題に持論を展開している。仕事での自己実現を目指す場合は中小企業を推薦。</p>

(日本十進分類 [NDC] 順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2012年6-7月労働図書館受け入れ)

①横谷正人著『経営理念の機能』中央経済社 (3+5+213頁, A5判)	②道脇正夫著『障害者の職業能力開発』雇用問題研究会 (viii+446頁, AB判)
②林徹著『協働と躍動のマネジメント』中央経済社 (5+6+229頁, A5判)	②北浦正行編『実践キャリアデザイン30講』日本生産性本部生産性労働情報センター (xi+207頁, A5判)
③松田陽一著『組織変革のマネジメント』中央経済社 (iv+ix+289頁, A5判)	③金子壽宏他編『実践知・エキスパートの知性』有斐閣 (xv+343+11頁, 四六判)
④松浦民恵著『営業職の人材マネジメント』中央経済社 (v+x+293頁, A5判)	④守屋貴司編『日本の外国人留学生・労働者と雇用問題』晃洋書房 (xi+257頁, A5判)
⑤富澤芳亜編『近代中国を生きた日系企業』大阪大学出版部 (vii+289頁, A5判)	⑤目黒依子他編『揺らぐ男性のジェンダー意識』新曜社 (204頁, A5判)
⑥立岩真也他著『差異と平等』青土社 (342+xvii頁, A5判)	⑥後藤澄江著『ケア労働の配分と協働』東京大学出版部 (vii+203頁, A5判)
⑦川人博他著『過労死・過労自殺労災認定マニュアル』旬報社 (135頁, A5判)	⑦H・ローダー編『グローバル化・社会変動と教育1』東京大学出版部 (viii+354頁, A5判)
⑧木暮太一著『僕たちはいつまでこんな働き方を続けるのか?』星海社 (299頁, 新書判)	⑧小村富美子著『日本の薬剤師』書肆クラルテ (263頁, 四六判)
⑨久遠智彦著『ワーカース・労働をめぐるアジアの旅』現代書館 (269頁, A5版)	⑨畠中信夫著『労働安全衛生法令を読みこなす』中央労働災害防止協会 (188頁, 新書判)
⑩岡芹健夫著『雇用と解雇の法律実務』弘文堂 (xiii+357頁, A5版)	⑩島西智輝著『日本石炭産業の戦後史』慶應義塾大学出版部 (xviii+374頁, A5判)

### 労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書112,000冊、洋書28,000冊、和洋の製本雑誌21,000冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(460種)、洋雑誌(170種)、紀要(560種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間: 9:30~17:00

休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659

利用資格: どなたでも自由に利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています